

平成23年度 第4回

しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会 次第

平成23年7月22日(金) 18:30～20:30

浦和コミュニティセンター 第13集会室

1 開 会

2 議 題

- (1) 「しあわせ倍増プラン2009」取組実績及び達成度等の評価について（*評価対象事業：15事業）

3 その他

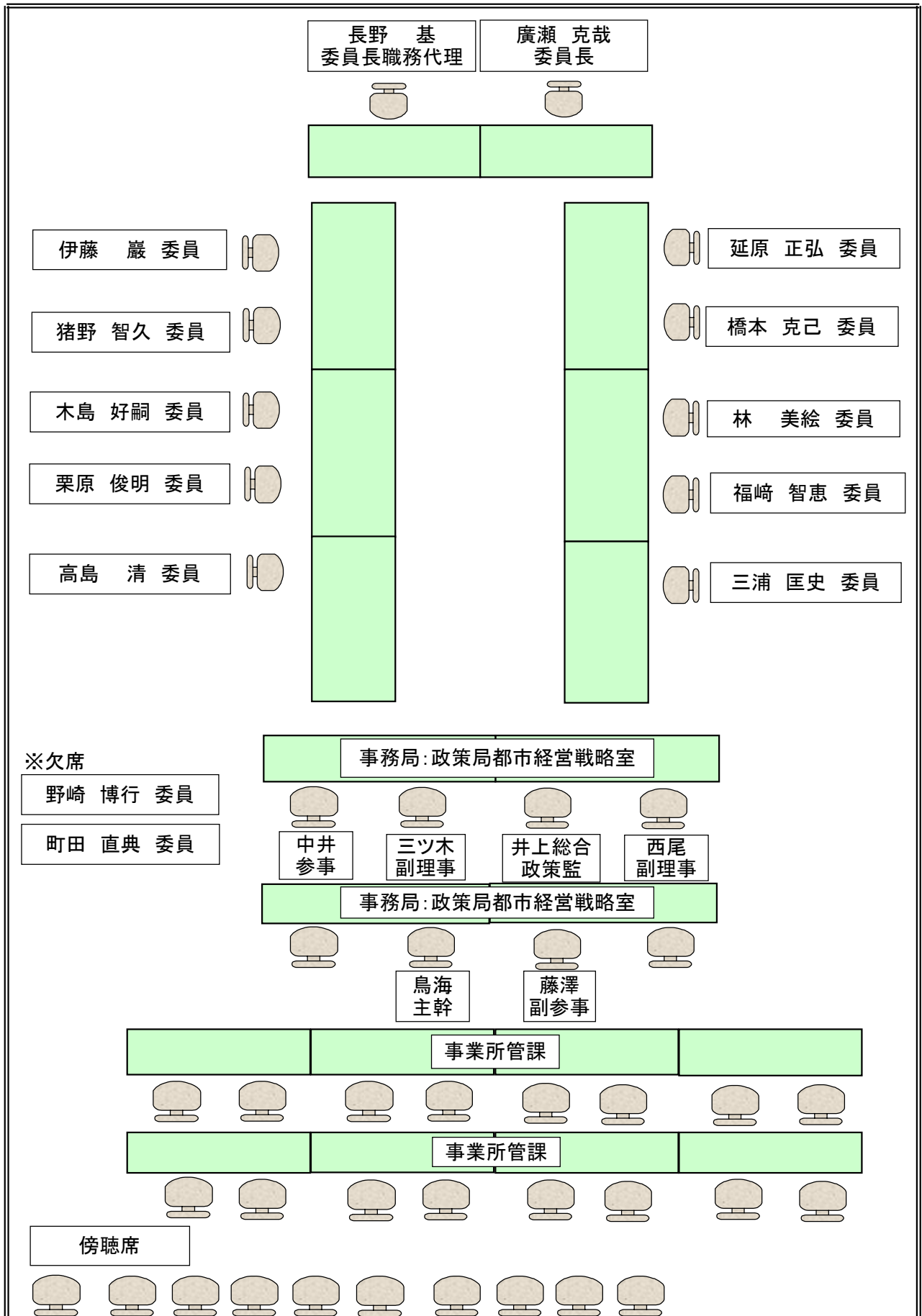
4 閉 会

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 座席表
- ・ 所管課職員出席者一覧
- ・ 委員評価取りまとめシート
 - ヒアリング実施7事業（資料1-1）
 - 委員評価取りまとめ一覧（資料1-2）
 - ヒアリング対象外8事業（資料2-1）
 - 委員評価取りまとめ一覧（資料2-2）
- ・ 開催日程別評価事業一覧（資料3）

平成23年度 第4回 しあわせ倍増プラン2009 市民評価委員会 座席表

日時:平成23年7月22日(金) 午後6時30分～
会場:浦和コミュニティセンター第13集会室



平成23年度 第4回 しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会

所管課職員出席者一覧

宣言・分野	No.	項 目		所 管 課	出席者	
					職 名	氏 名
高齢者 (5/7)	31	介護する人への支援体制を充実します。(すぐ)		介護保険課	課 長	佐藤 崇之
				高齢福祉課	課 長	米谷 晃
	33	空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。(4年以内)				
		33-1	高齢者サロン			
		33-2	介護者サロン	介護保険課	課 長	佐藤 崇之
	34	シルバー人材センターの充実や団塊の世代の市民活動の推進など、高齢者が地域で働く場を増やします。(4年以内)		高齢福祉課	課 長	米谷 晃
35	シニアユニバーシティを充実します。(4年以内)		高齢福祉課	課 長	米谷 晃	
健康・安全・安心 (2/17)	37	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元気倍増大作戦～ (4年以内)				
		37-1	食生活・運動			
		37-2	介護予防	高齢福祉課	課 長	米谷 晃
			介護保険課	課 長	佐藤 崇之	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.3-1 (第4回委員会:7月22日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 ▲加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
4 高齢者	31	介護する人への支援体制を充実	すぐ	・22年度中に地域包括支援センターを1か所増 ・22年度末までに相談員を増員するなどセンターの相談体制強化 ・22年度からセンターの年中無休化(年末年始除く)	①地域包括支援センター1か所増設 ②全地域包括支援センターに相談員1名増員 ③連絡システムの構築 ④年中無休化(年末年始除く)	①地域包括支援センター1か所増設 ②全地域包括支援センターに相談員1名増員 ③連絡システムの構築 ⑤年中無休化(年末年始除く)	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	予定通りの進行の為
猪野委員	b	→	7	工程表通り。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの成果である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	このセンターの名前を聞いても、直感的に何をするとおころなのかわかりづらい。それも周知の低さにつながるように思う。ただし、H21→H22は全5種の相談件数が上がっているため、だんだん理解が浸透し、利用が増してきている。さらなる周知をはかるとともに、件数が増えても充実した支援を提供できるよう期待する。
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りに進捗し、実績も向上している。
福崎委員	b	↘	6	単年度目標として、昨年と同じ内容になっており、進捗度が確認できません。 今後の単年度目標には、質的面の強化も保障されるような内容を挙げてほしいと思います。(リピーター数のカウント、センターの周知ツールなど)
町田委員	b	→	7	支援センター、相談員増員などシステム構築もあわせて予定を計画どおりおこなったということで評価。相談員との連絡システムの構築は、実質的な利用が少なくても気持ちの上では安心につながる。このような介護者及び介護支援者への精神的ケアが引き続き重要。24時間いつでも相談ができるシステムでも良いと個人的には考えている。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価する。 ただし、地域包括支援センターの年中無休化(土日オープン)は、今のところ利用者が少ないと聞く。積極的な広報で利用を促進するか、不合理な場合は区役所のように部分的に週末オープンにするなど、当初計画にこだわらない実態に即した柔軟な運用を望む。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.3-2 (第4回委員会:7月22日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
4 高齢者	33-1	空き教室や空き店舗を活用し高齢者サロン・介護者サロンの設置 (高齢者サロン)	4年以内	・24年度末までに市内47地区社会福祉協議会で高齢者サロンを実施 ・24年度末までに老人福祉センター2か所増	①累計39地区社協でのサロン開催 ②浦和区・南区内の老人福祉センター開設準備	①40地区でのサロン実施 ②浦和区・南区内の老人福祉センター開設準備	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	→	7	予定通りの進行の為
猪野委員	b	→	7	工程表通り。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	↘	6	地区社協以外のサロン実施を含めて計測していることは事業主体の変更であり、計画内容そのものの変更と考えら得る。老人福祉センターの開設準備は計画通りと言える。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	H22は工程表の通り。 先日の現地視察で、H23年5月に開設した仲本荘を見学したが、非常に綺麗で設備が充実しているように見える反面、職員の方からは、高齢者施設によくあるお風呂がないこと、「老人」の名称に抵抗があり利用者が集まらないこと、2Fの児童センターとの利用数の格差、入り口が高齢者と児童一緒なので利用者同士が戸惑うこと等の問題を聞いた。 開設した後の問題解決も重要。
廣瀬委員	b	→	7	高齢者サロン実施地区が工程表の目標通り増加し浦和区、南区の老人福祉センターの開設準備が進められた。
福崎委員	b	↗	8	浦和区のセンターへ視察に行きました。スタッフの方の姿勢が熱心かつ真剣で、今後の発展に期待が持てました。
町田委員	b	→	7	1地区増えているものの予定どおりの進捗と判断。公共施設のストックマネジメントとの調整を図り、公共施設の有効活用を視野にいれながら、人々のコミュニケーション活動のきっかけとしていくためにも大切な事業と考えます。
三浦委員	b	↗	8	工程通り進捗と評価する。 昨年度の市民評価委員会でのコメント（地区社協が実施するサロンのみではなく、自治会やNP0等が運営するサロンのデータも把握すべき）を受け、情報共有が進んでいることを評価して加算します。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.3-3 (第4回委員会:7月22日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
4 高齢者	33-2	空き教室や空き店舗を活用し高齢者サロン・介護者サロンの設置(介護者サロン)	4年以内	・24年度末までに市内全地域包括支援センターで介護者サロンを実施	①介護者サロン26か所実施 ②介護者サロンの周知	①介護者サロンを26か所実施(平成22年度3月末現在、全地域包括支援センターで実施) ②介護者サロンの周知	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	予定通りの進行の為
猪野委員	b	→	7	工程表通り。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	介護をする人へのサポートは、今後より重要となると考えます。
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	↘	6	ほぼ工程表通りの成果と考えるが、合同開催とせざるを得なかった理由の説明は必要と考える。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	↘	6	サロンごとの実施回数及び実施ごとの参加者人数に大きな差あり。これでは目標達成とは言えない。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。現場のニーズを拾い、施策に良い形で実現出来たのではないかと感じる。今後の展開に期待。
林委員	b	→	7	進捗は工程表の通りだが、区や施設によって随分参加人数にバラつきがある。各施設の規模によるとしても、参加人数を開催回数で割った平均が4人未満が8ヶ所あり、中には開催5回で5人(平均1人)というものまである。これは互いに話し合う場になっているのか疑問。
廣瀬委員	b	→	7	工程表通り、全地域包括支援センターで実施できた。周知については、一般的なメディアよりも、介護関連のサービスと合わせることでより効果的な手段があるのではないかと？
福崎委員	b	↘	6	“周知”だけでは、具体的に何をしたら見ることができません。市から個々の会場へ、どのような活動支援を行っているのか、分かるような目標を立ててください。市と現場会場との役割分担が大事だと思います。
町田委員	b	→	7	平成21年度に比べて平成22年度は当初の予定通りの数のさるサロン数であるため、予定どおりと評価した。またこの事業は介護者が心身共に充実しているからこそ、介護者に安心感を与えられるのだから、33-1と同様、公共施設のストックマネジメントとの調整を図り、有効活用をすべき。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価する。
委員会評価(平均点)	b		6.8	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.3-4(第4回委員会:7月22日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 ▲加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
4 高齢者	34	シルバー人材センターの充実や団塊世代の市民活動の推進	4年以内	・24年度末までに会員数6,300人、年間就業率90% ・24年度末までにシルバーバンクマッチング数を年間300件以上	①シルバー人材センターの累計会員数5,700人 ②シルバーバンクのマッチング数200件 ③シニア生き方発見セミナー2回開催	①★シルバー人材センターの累計会員数5,152人 ②シルバーバンクのマッチング数199件 ③シニア生き方発見セミナー2回開催	c	→	4	・平成22年度のシルバー人材センターの累計会員数が5,152人であり、目標数の5,700人に到達しなかったため、「c」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	→	4	目標の人材確保が出来ない為
猪野委員	b	↘	6	全体としては進捗度は概ね工程表通り。累計会員数が目標値を約10%下回ったことを減点。
木島委員	c	↘	3	評価理由：シルバー人材センター会員数、今年度未達、かつ、H21年度の目標も未達のため減点 (実績5,152/H21目標5,400) コメント：質問もさせて頂きましたが、シルバー人材センターとシルバーバンクの統一をご検討いただきたいと思います
栗原委員	c	↗	5	—
高島委員	c	→	4	会員数が目標に達していないのでCと判断。遅れを取り戻すためには新しい取り組みをしなければならないのでは？
長野委員	c	→	4	会員数・年間就業率が目標水準に届かず。
野崎委員	b	↘	6	会員数は目標に到達していませんが、マッチングの件数は計画を大きく上回って達成されていると判断しました。
延原委員	c	↗	5	未達ではあるが、請負件数の減少（雇用側の問題）が原因であればやむを得ない。
橋本委員	c	↘	3	大幅な遅れがあり、H23以降の取り組みに関する分析・修正が求められる。センターやバンク、市政で求めるボランティア等のトータルな視点が求められる。
林委員	c	→	4	「⑥今後の取組・予定」のH23のシルバー人材センターの会員数の拡大が、848人と大幅にそれまでのしわ寄せを解消しようとしているが、実際有効な対策はあるのか？
廣瀬委員	c	→	4	登録者数が伸びない理由の分析は？ マッチング件数はほぼ目的を達成したが、就業率の低下もあり、課題をかかえていることは明らか。
福崎委員	c	↗	5	残り二年間を思うと、5100人台に終わったのは今後厳しくなるかと思いますが、これまでの取組みに対して工夫できる点を探し出し、頑張っ て頂きたいと思います。 また、急激な増加でサービスの提供体制が許容量を越えてしまわないように、バランスを取りながら進めて頂いた方がいいと思います。
町田委員	c	→	4	会員数登録の予定数が1/3程度あり、目標数を大きく下回っているため、Cランク。業務開始時のマッチングに加えて、労働を提供している過程での、クライアントとのフォロー態勢が必要な場合も多いと感じる。働く場を安定させるためにはなにが必要かをリサーチ願いたい。
三浦委員	c	↗	5	マッチング件数は増加しているが、単年度登録者数が顕著な現況傾向にある。高齢者人口が増加する中で、きちんとニーズに対応できていないのではないか。 ただし、マッチング件数の増加は評価できるのでC-5。
委員会評価 (平均点)	c		4.4	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.3-5 (第4回委員会:7月22日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
4 高齢者	35	シニアユニバーシティの充実	4年以内	・24年度末までに定員1,245人 ・23年度末までに卒業生活動拠点整備 ・校友会活動卒業生9割以上 ・大学院卒業生のうち、一定割合をシルバーバンクへ登録	①定員60名の拡大 ②学科の新設 ③卒業生の活動拠点の整備 ④シルバーバンクへの登録者100名増	①定員60名拡大 ②福祉科の設置、北大宮校の新設準備、△地域活動講座開催 ③整備に向けて基本設計実施 ④★登録者26名	c	↑	5	・平成22年度のシルバーバンクへの登録者数が26名であり、目標の100名に達しなかったため、「c」と判断。 ・ただし、地域活動講座の開催など、地域活動への動機付けとなる新たな取組を始めたので加点。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	→	4	就学目標がある人の為の登録であるので、目標設定に無理がある。
猪野委員	c	→	4	シルバーバンクへの登録者が目標値を大きく下回っている。
木島委員	c	→	4	評価理由：④「シルバーバンクへの登録者100名増」未達（実績26名）
栗原委員	c	↑	5	—
高島委員	c	↑	5	内部評価と同様の評価とした。
長野委員	c	↑	5	定員増、拠点整備等の制度拡充は予定通り進む。シルバーバンク登録者は目標に届かず。
野崎委員	c	↑	5	概ね工程表通り進捗されていますが、シルバーバンクへの登録者数が目標を達成されていないと判断しました。2年連続して、目標人数を大きく下回っているのは、当初の数字の設定が高すぎたのか、周知徹底されていないのか疑問です。
延原委員	c	→	4	目標（シルバーバンク登録）が26名/100名=26%のため、cの4とする。
橋本委員	c	→	4	目標設定の修正に関して検討してもいいのではないかと感じます。
林委員	c	↑	5	シルバーバンクに登録しない理由を調査する必要あり。
廣瀬委員	c	→	4	参加者のニーズと、卒業生への市の期待にズレがあるのではないかと感じます。
福崎委員	c	↑	5	なかなか進展の難しい事業のようですが、まだまだ働きたいと望む高齢者の方の掘り起こしを進めていただきたいと思います。
町田委員	c	→	4	平成21年度も大学院卒業生のシルバーバンク登録者への目標値が満たなかった。その原因も探ることが増員につながる。改善がされていないため、プラスの加点はしない。それぞれが幸せを感じ充実した日々を感じるためにも、学びの場を提供することは有効。
三浦委員	c	↑	5	工程の目標と達成度からC-5と評価する。ただし、シニアユニバーシティの卒業生がシルバーバンクの登録に結びつくとする計画そのものにやや無理があると思われる。
委員会評価 (平均点)	c		4.5	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.3-6 (第4回委員会:7月22日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
4 健康・安全・安心	37-1	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸 ～元気倍増大作戦～(食生活・運動)	4年以内	・24年までに健康寿命を男16.4→17.0年、女19.2→19.5年まで延伸 ・23年度末までに食事バランスガイドを知っている人の割合を60%以上 ・24年度末までに意識的に運動している人の割合を男35%以上、女26%以上	①いきいき健康づくりグループ育成教室全区開催 ②健康倍増ガイドブックの作成・配布 ③ウォーキングの推奨	①グループ育成教室を全区で開催 ②健康倍増ガイドブック20,000部作成・配布 ③ウォーキングに関する公開講座の開催	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	ガイドブックの作成は理解するが、食生活等の改善については難しい。
猪野委員	b	→	7	工程表通り。
木島委員	b	↗	8	評価理由：元々の目標をすでに一部達成しているため加点。食事バランスガイド60%以上を達成(実績68.5%)、かつ女性健康寿命19.5年を達成(実績19.6%)。H22年度主な目標に設定していないため、進捗度はbとする。
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの成果である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。事業の取り組みと健康寿命に関しては検証が必要かと思います。
林委員	b	→	7	H22年度の男女の健康寿命、運動している人の割合を記載してほしい。
廣瀬委員	b	→	7	アウトプット指標としては工程表通り。それが成果に結びつくかどうかの検証が必要。
福崎委員	c	↗	5	期限内の数値目標に対する、単年度の数値目標が設置されていません。
町田委員	b	↘	6	全体的な目標はわかるが、具体的な年度ごとの事業計画が不明なため減点。平成23年度はバランスガイドの周知割合を調査するらしいが、そのサンプル収集方法によって大きな数値のばらつきができることを考慮されたい。市民に健康についての情報を食をつうじての啓発事業は効果があると思う。継続して費用対効果の高い施策としてしていただきたいと願う。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価する。

委員会評価 (平均点)	b		6.9	
----------------	---	--	-----	--

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.3-7 (第4回委員会:7月22日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
4 健康・安全・安心	37-2	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸 ～元気倍増大作戦～(介護予防)	4年以内	・24年までに健康寿命を男16.4→17.0年、女19.2→19.5年まで延伸 ・24年度末までに介護予防特定高齢者施策事業の参加者を1,800人に増 ・24年度末までに介護予防一般高齢者施策事業の参加者を15,000人に増 ・24年度末までに介護予防・生活支援事業(介護予防水中運動教室事業)の参加者を210人に増	①介護予防特定高齢者施策事業は1,400人。 ②介護予防一般高齢者施策事業は13,000人。 ③介護予防水中運動教室事業は170人。	①★介護予防特定高齢者施策事業は1,130人。 ②介護予防一般高齢者施策事業は21,028人。 ③★介護予防水中運動教室事業は145人	c	→	4	・平成22年度の介護予防特定高齢者施策事業参加者が1,130人、同水中運動教室事業参加者が145人で、ともに目標値を下回ったので「c」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	→	4	施策事業の参加者については下回っているが内容等が理解されていないと感じる。
猪野委員	c	→	4	介護予防特定高齢者施策事業及び介護予防水中運動教室事業に遅れがある。「c4」とした。
木島委員	c	↗	5	評価理由：二つの未達があるため進捗はcとするが、介護予防一般高齢者施策事業参加者の達成率162%(実績21千人/目標13千人)を評価し加点
栗原委員	c	→	4	—
高島委員	c	→	4	内部評価と同様の評価とした。参加者を増やすためには市報等での周知等と言っているが、「等」の具体的な方法を早急に考えてほしい。
長野委員	c	→	4	最もリスクが高い「元気アップシニア」層の参加が目標水準に届かなかった。「生活機能の低下が見られる方」が市内全体でどの程度存在するのかの基礎数値(予測値)が把握できないので、評価が難しい。
野崎委員	c	↗	5	参加者が大きく目標を上回った事業もありますが、目標を下回っている事業に関しては、参加促進等も勿論のこと内容に関してもニーズを満たしているのか見当が必要だと感じます。
延原委員	c	→	4	特になし。
橋本委員	c	→	4	重視すべき特定高齢者での達成が無かった点は残念。他事業とのシナジー効果を期待します。
林委員	b	↘	6	要介護の恐れがある①③の本来参加すべき人数がもっと多いはずなら、cの「5」に変更。(そうでなければ、②が非常に増えているので、喜ばしいように思った)
廣瀬委員	c	→	4	目標に達しないだけでなく、前年度よりも下がっている理由の検証が必要
福崎委員	c	↗	5	参加者数がそれほど低い数字ではないと思います。リピーターを増やし、新しい方を誘ってもらえるように、内容の充実に努めてほしいと思います。
町田委員	c	→	4	具体的に設定した目標数値のうち過半が下回ったことで評価。ストレッチなど運動の習慣をもってもらうことは必要です。
三浦委員	c	↘	3	参加者数が目標を下回ったため0-3。特に、水中運動教室は参加者が伸びないことと同時に、開催場所(施設)立地に偏りがあり、居住地(区)によって不公平感が否めない。また、介護予防で一番注力すべき特定高齢者施策事業の参加者減少も深刻に受け止めるべき。
委員会評価(平均点)	c		4.3	

＜ヒアリング実施事業(7事業)＞

宣言・分野	No.	倍増プラン事業名	委員名 (敬称略)	伊藤	猪野	木島	栗原	高島	長野	野崎	延原	橋本	林	廣瀬	福岡	町田	三浦	達成度																
																		進捗度				点数										平均値		
																		a	b	c	d	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		0	平均値
4 高齢者	31	介護する人への支援体制を充実します。(すぐ)	達成度	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	14				13	1									6.9
			達成度	点数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6																
	空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。(4年以内)																																	
	33-1	高齢者サロン	達成度	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	14			2	11	1								7.1
			達成度	点数	7	7	7	7	7	6	7	7	7	7	7	7	8	7	8															
	33-2	介護者サロン	達成度	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	14				11	3								6.8
			達成度	点数	7	7	7	7	7	6	7	6	7	7	7	6	7	7																
	34	シルバー人材センターの充実や団塊の世代の市民活動の推進など、高齢者が地域で働く場を増やします。(4年以内)	達成度	進捗度	c	b	c	c	c	c	b	c	c	c	c	c	c	c	c	c	2	12				2	4	6	2					4.4
			達成度	点数	4	6	3	5	4	4	6	5	3	4	4	5	4	5																
	35	シニアユニバーシティを充実します。(4年以内)	達成度	進捗度	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c		14				7	7							4.5
達成度			点数	4	4	4	5	5	5	5	4	4	5	4	5	4	5																	
食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元気倍増大作戦～(4年以内)																																		
37-1	食生活・運動	達成度	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	c	b	b	b	13	1			1	11	1	1							6.9	
		達成度	点数	7	7	8	7	7	7	7	7	7	7	7	5	6	7																	
37-2	介護予防	達成度	進捗度	c	c	c	c	c	c	c	c	c	b	c	c	c	c	c	1	13					1	3	9	1					4.3	
		達成度	点数	4	4	5	4	4	4	5	4	4	6	4	5	4	3																	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.3-1 (第4回委員会:7月22日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
4 高齢者	32	配食サービスの拡充を図り高齢者の自立を支援	すぐ	・22年度の早い時期に配食サービスを週5回に拡充	・配食サービスを週5回に拡充	・配食サービスを週5回に拡充	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	→	7	予定通りの進行の為
猪野委員	b	→	7	工程表通り。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り コメント：質問にご回答頂いたところ、利用者数の減少について、様々な理由から配食サービスを利用しなくなっているという分析が行われているようです。この目標自体を見直すべき時期ではないでしょうか。
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの成果である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	利用人数がH21年度より5～10%（月ごと比較）減少している。サービス5回に拡大した効果が出ていないのか。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	利用人数はH21→H22にかけて通年で減っているにもかかわらず、H22年6月からH21に比べて食数が伸びていて、週5の利用がされていることがうかがえる。 1日1日の食事の充実も高齢者に大事なこと。配食ボランティアの拡充が課題。
廣瀬委員	b	→	7	熱中症への注意喚起は今年も重要。ボランティア確保が困難になっているとのことで、その対策が望まれる。
福崎委員	b	→	7	利用者が減った理由に、民間企業+家庭状況が挙がっていますが、公的サービスから離れる方がいるということは、財政改革の視点からいうと良いことだと思います。 高齢者が増える限り、利用者は常に一定数いるか増加するかだと思います。サービス従事者へのサポート体制を整え、持続事業となるよう努めてほしいです。
町田委員	b	→	7	平成22年度の早い時期での実施としての6月は妥当と判断。配食サービスを行うことでどのような改善が図られたのかを広報し、地域でのフォロー体制としていければと考える。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価する。 サービス受給世帯の情報を地域包括支援センターと共有するなど、地域包括ケアに結びつけてもらいたい。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.3-2 (第4回委員会:7月22日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
4 高齢者	36	シルバー元気応援ショップ制度の創設	4年以内	・22年度中にシルバー元気応援ショップ制度創設 ・22年度中に協賛店600店舗、24年度末までに協賛店1,000店舗	①シルバー元気応援ショップ制度の開始 ②協賛店数(600店舗)	①シルバー元気応援ショップ制度の開始 ②協賛店数(902店舗)	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	→	4	シルバーに限定する事に無理を感じる。
猪野委員	b	↗	8	協賛店数が目標値を上回っており、加点評価。
木島委員	a	→	9	評価理由：達成率150%を評価(実績902店舗/目標600店舗)
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	↗	8	協賛店が目標より大幅に多いので加点した。
長野委員	b	→	7	協賛店舗数は目標を上回る。65歳以上市民(24万人)へのリスト送付が事業費・作成数から類推できず(要確認)
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	↘	6	目標数が低すぎるので、達成しているが減点。
橋本委員	b	→	6	加盟店での利用状況/経済効果等に関して、利用者の声など事業成果としての視点も必要なのではないでしょうか？経済活性化という視点が判断できず減点しました。
林委員	b	→	7	市内と市外の店舗数を記載してほしい。
廣瀬委員	b	→	7	順調に協力店は増えている。さてその成果をどう把握するのか。
福崎委員	b	↗	8	予定よりずっと早く進んでいるようです。今後の目標が、制度の創設と協賛店の増加以外に、制度を利用した高齢者福祉のネットワーク形成などにも向けられることを望みます。
町田委員	b	↗	8	募集を早期時期にかけたことは評価。そしてその数も目標数を大きく上回ったことを加点評価。十分な宣伝と理解を得られたからでしょう。商店街の活性化や地域活性化のためにも、加盟店舗を増加させることは必要と考えます。市民のニーズにあった資金用途のふさわしい事業の選定が必要です。
三浦委員	b	↗	8	工程通りの取り組みにより、目標の600店舗を大きく上回る902店舗の協賛店を獲得しているので加点。ただし、実際の利便性(制度の効果)が発揮される店舗数として妥当かどうか、サービスメニューは揃っているかどうか、検証しながらの推進が望まれる。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.3-3 (第4回委員会:7月22日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点 減点	点数	評価理由
4 健康・安全・安心	38-1	多目的広場の倍増 (多目的広場整備方針の決定)	4年以内	・多目的広場の整備に向けて、管理運営手法などに関する研究会を設置し、平成22年6月までに整備方針を決定	①研究会の開催(3回) ②整備方針の決定(6月) ③未利用地の情報収集(12月) ④管理運営団体の募集(2月)	①研究会3回開催 ②▼整備方針の決定(12月) ・管理運営要綱の策定(1月) ③広場候補地選定(12月) ④管理運営団体の募集(2月) ・管理運営団体の再募集(4月予定)	b	↓	6	・概ね平成22年度の数値目標、取組内容、工程表のとおり進捗したので、「b」と判断した。 ・整備方針の策定が遅れたため、減点評価した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点 減点	点数	
伊藤委員	b	↓	6	広場の整備についてはこれから予定されることとなるが、管理運営に問題が多い。
猪野委員	b	↓	6	整備方針決定の遅れを減点評価。
木島委員	b	→	7	評価理由：年度内で目標通り
栗原委員	b	↓	6	—
高島委員	b	↓	6	内部評価と同様の評価とした。
長野委員	b	↓	6	整備方針の決定が半年遅れてしまった。
野崎委員	b	↓	6	概ね工程表通り進捗されてたと判断しましたが、整備方針の策定の遅れをマイナスと判断しました。
延原委員	b	↓	6	特になし。
橋本委員	b	↓	6	条例を制定し、目的達成のための事業展開スピード感が感じることが出来ず、減点にしました。
林委員	b	↓	6	—
廣瀬委員	b	↓	6	内部評価と同様
福崎委員	b	→	7	年内の決定をみたのであれば、減点まではいかないと思います。 “多目的広場の倍増”というテーマに沿って、今後は数値目標も立てて頂ければと思います。
町田委員	b	↓	6	管理運営団体との協議内容がどのようなものとなり、広場整備箇所がどのあたりになるのかが不明なため減点。12月に策定された整備方針でさえも曖昧な印象を受ける。
三浦委員	b	↓	6	概ね工程通りだが、開設準備の管理運営団体募集に遅れがみられるのでB-6。
委員会評価 (平均点)	b		6.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.3-4 (第4回委員会:7月22日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍增プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
4 健康・安全・安心	38-2	多目的広場の倍增 (都市公園内のグラウンド等の個人への開放)	4年以内	・22年度末までに都市公園内の運動施設に個人利用ができる開放日を設け、だれもが気軽にスポーツができる機会を増やす	①現況調査・条例改正の必要性の検討 ②平成23年度から実施する都市公園内のグラウンド等の個人開放に向けた準備	①検討の結果、条例改正は不要と判断 ②平成23年度のグラウンド等の個人開放日程を決定 △試行的に3施設の個人開放を実施	b	↑	8	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断。 ・平成23年度から実施する予定であった、グラウンドの個人開放を試行的に実施できたため、加点評価としました。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	個人開放についての内容について理解できない部分もある。
猪野委員	b	↑	8	グラウンドの個人開放を試行的に実施したことを加点評価。
木島委員	b	↑	8	評価理由：試行的開放を評価し加点
栗原委員	b	→	7	テストケースでの開催なので、加点評価とは判断しませんでした。
高島委員	b	↑	8	内部評価と同様の評価とした。
長野委員	b	↑	8	試行的開放も実施された。
野崎委員	b	↑	8	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	「試行実施」(H23予定)は加点要素ではない。試行はあくまで試行。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	↑	8	試行日の写真を見ると、1施設あたり平均25人程度(全76人)との通り、広い球場には少し利用者が少ない気がするが、初日ということや良い雰囲気もあったとの報告もあるので、加点評価した。
廣瀬委員	b	→	7	基本的に工程表通り。前年度の一部試行は工程表の枠を出るものではないので、加点要素とはしなかった。
福崎委員	b	↑	8	無料の利用は財源の問題にも絡むのかと思いますが、施設周辺に住む利点・魅力が増せば、間接的な経済効果が望めると思います。
町田委員	b	↑	8	グラウンドの個人利用が前倒しで実施されたことを加点評価。グラウンドとして利用可能な施設には、他に公園、学校など多くの施設がある。これらの施設への一般開放を願う。
三浦委員	b	→	7	一部の試行的実施も含め、現況調査等の本格運用前の準備プロセスの一環と判断し、工程通り進捗と評価する。
委員会評価 (平均点)	b		7.6	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.3-5（第4回委員会：7月22日（金）開催）

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
4 健康・安全・安心	38-3	多目的広場の倍増 (民有地を活用した多目的広場の整備)	4年以内	・平成24年度末までに民有地を活用したスポーツもできる広場を4か所以上に増	①情報交換プラットフォームの構築 ②広場の候補地選定	①情報交換プラットフォームを構築、ホームページに掲載 ②平成23年度に整備する広場候補地を1か所選定	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	個人資産の利用について、安易な考え方で候補地にすることは迷惑ではないかと思う。
猪野委員	b	→	7	工程表通り。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	当初計画では2ヶ所とのことでしたが、もう1ヶ所の整備についてはどうなっているのでしょうか？
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの成果である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りに進捗。しかし、情報交換プラットフォームの所在は分かりにくい。
福崎委員	b	→	7	民有地への介入は難しい事柄と思いますが、実践例を作る意味は大きいと思います。
町田委員	b	↘	6	広報を積極的にしていることは評価する。目標数値設定がされていないため判断が難しい。具体的な候補地獲得数とかを数値にできないのか。身近な施設にも開放の余地はある。それらにも目を向けて積極的な施策としてもらいたいと願う。
三浦委員	b	→	7	平成22年度当初目標通りの進捗と評価する。昨年度もコメントしたが、「情報交換プラットフォーム」という名称がしっくりこない。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.3-6 (第4回委員会:7月22日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
4 健康・安全・安心	38-4	多目的広場の倍増 (仮称)スポーツふれあい広場の整備)	4年以内	・平成24年度末までに公園内の一角にボール遊びなどのスポーツもできる(仮称)スポーツふれあい広場を各区分に1か所整備	①都市公園内の「(仮称)スポーツふれあい広場」を2か所整備	①都市公園内の「(仮称)スポーツふれあい広場」を2か所整備	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	運用、管理、近隣への配慮等、問題も多く考えられる。
猪野委員	b	→	7	工程表通り。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	↗	8	費用をかけずに事業を進めた点を評価しました。
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの成果である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	「(仮称)」はいつとれるのか？
廣瀬委員	b	→	7	予定通り2箇所整備した
福崎委員	b	→	7	“問題を防ぐために”公園などの使用に規制が設けられたのは知りませんでした。 自由に動いて遊べる場所は、絶対大事です！！
町田委員	b	→	7	目標に掲げた数値を達成したことで予定どおりと評価します。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価する。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.3-7 (第4回委員会:7月22日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
4 健康・安全・安心	38-5	多目的広場の倍増 (大学との連携による多目的広場の整備)	4年以内	・24年度末までに市内にある大学と連携し、学校施設内の一部を活用したスポーツができる多目的広場を3か所整備	①大学との調整(3校) ②グラウンド等の活用(1校)	①埼玉大学・芝浦工業大学・日本大学との調整(3校) ②★埼玉大学との検討(1校)	c	→	4	・市内の3大学と協議し課題点を抽出することができたが、グラウンド等の活用については開設までに至らなかったことから「c」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	→	4	管理、運営に問題がある。
猪野委員	c	→	4	グラウンドの活用に至っていない。進捗度は遅れていると評価。
木島委員	c	→	4	評価理由：グラウンド等の活用について未達
栗原委員	c	→	4	—
高島委員	c	→	4	内部評価と同様の評価とした。開設にいたらなかった理由として各校どんな課題があるのか？
長野委員	c	→	4	グラウンド等の活用は実現せず。
野崎委員	c	→	4	事業費も掛かっていますので、工程表通り進捗していただきたい。今後2年での達成に期待します。
延原委員	c	→	4	特になし。
橋本委員	c	→	4	条例制定後、具体的にさいたま市全体の利便性を考え、費用対効果を踏まえた仕組みの中で考えていく必要があるのでは？所管が複数局・課であり、トータル感がない。
林委員	c	→	4	—
廣瀬委員	c	→	4	検討は進めたが1箇所目の開設には至らず。
福崎委員	c	→	4	予想より話し合いを進めるのが困難だったということかと思います。大学事務も時間が内など都合があると思いますが、取組みを続けてほしいです。
町田委員	c	→	4	開設ができなかったことで遅れていると評価します。さいたま市は広大です。大学のみならず広い敷地を有している企業や地域施設などにも積極的な働きかけ及び調整を行うことで有効な活用になると考えます。
三浦委員	c	↘	3	1ヶ所開設の目標で実現しなかったのだからC-3。もともとの数値目標が小さいのだから、スピードが評価のポイントになる。
委員会評価 (平均点)	c		3.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.3-8 (第4回委員会:7月22日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
4 健康・安全・安心	38-6	多目的広場の倍増 (農業関連施設へのスポーツもできる多目的広場の整備)	4年以内	・24年度末までに3か所の市有農業施設の敷地内にスポーツもできる多目的広場を整備	・農業施設の敷地内に多目的広場1か所整備	・農業施設の敷地内に多目的広場1か所整備	c	→	4	・市内の3大学と協議し課題点を抽出することができたが、グラウンド等の活用については開設までに至らなかったことから「c」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	農業施設については農業に限定している施設を簡単に多目的に使用することは限定があるべき。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの成果である。
野崎委員	b	→	7	工程表の通り進捗されたと判断いたしました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通り、1箇所の整備ができた。
福崎委員	b	→	7	今後も適切な場所が見つかれば良いと思います。
町田委員	b	→	7	整備に向けて事例調査をし、多目的広場を整備したことで予定通りと評価。具体的な整備となることで高齢者への健康づくり・生きがいがいくつくりになる施策としても有効と考えます。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価する。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

《ヒアリング対象外事業(8事業)》

宣言・分野	No.	委員名 (敬称略)	伊藤	猪野	木島	栗原	高島	長野	野崎	延原	橋本	林	廣瀬	福崎	町田	三浦	達成度																
																	進捗度					点数									平均値		
																	a	b	c	d	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		0	平均値
4 高齢者	32	配食サービスの拡充を図り高齢者の自立を支援します。(すぐ)	達成度	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	14	14											7.0		
			達成度	点数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7															7	7
	36	高齢者を対象とした、(仮称)シルバー元気応援ショップ制度(割引制度)を創設します。(4年以内)	達成度	進捗度	c	b	a	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	1	12	1										7.4	
			達成度	点数	4	8	9	7	8	7	7	6	6	7	7	8	8	8															8
			遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。(4年以内)																														
	38-1	多目的広場整備方針の決定	達成度	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	14			2	12									6.1
			達成度	点数	6	6	7	6	6	6	6	6	6	6	6	7	6	6															
	38-2	都市公園内のグラウンド等の個人への開放	達成度	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	14			8	6									7.6
達成度			点数	7	8	8	7	8	8	8	7	7	8	7	8	8	7																
38-3	民有地を活用した多目的広場の整備	達成度	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	14			13	1									6.9	
		達成度	点数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	7																
38-4	「(仮称)スポーツふれあい広場」の整備	達成度	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	14			1	13								7.1		
		達成度	点数	7	7	7	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7																
38-5	大学との連携による多目的広場の整備	達成度	進捗度	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	c	14						13	1					3.9		
		達成度	点数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3																
38-6	農業関連施設へのスポーツもできる多目的広場の整備	達成度	進捗度	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	14			14									7.0		
		達成度	点数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7																

※平均値の集計について … 達成度の点数が単独で2点以上の開きがある場合は、離れ値として扱い、平均値の算出から除外している。

平成23年度 市民評価委員会開催日程(予定)

	期日・時間	内容及びヒアリング対象事業(案)		
第1回 (終了)	6月6日(月) 19:00~21:00	・委嘱状交付式 ・評価の実施手法 ・今後の進め方		
第2回 (終了)	6月24日(金) 19:00~21:00	項目数 (事業数)	宣言・ 分野別	個別事業名 (事業番号 事業数)
		3項目 (10事業)	条例宣言 行財政改革	①ノーマライゼーション条例 (No.Ⅱ-3 1事業) ②行財政改革推進チームの設置 (No.1-1~1-5 5事業) ③すべての窓口業務を区役所で (No.2-1~2-4 4事業)
第3回 (終了)	7月8日(金) 19:00~21:00	4項目 (7事業)	行財政改革 子ども	④マッチングファンド制度創設 (No.15 1事業) ⑤児童虐待ゼロを目指し、職員を増員 (No.20-1~20-2 2事業) ⑥子ども博物館構想の推進 (No.22 1事業) ⑦待機児童ゼロプロジェクト (No.24-1~24-3 3事業)
第4回	7月22日(金) 18:30~20:30	5項目 (7事業)	高齢者 健康・ 安心・安全	⑧介護する人への支援体制を充実 (No.31 1事業) ⑨高齢者サロン、介護サロン (No.33-1~33-2 2事業) ⑩シルバー人材センター (No.34 1事業) ⑪シニアユニバーシティの充実 (No.35 1事業) ⑫健康寿命の延伸~元気倍増大作戦~ (No.37-1~37-2 2事業)
第5回	8月5日(金) 19:00~21:00	3項目 (12事業)	健康・安 心・安全 環境・ まちづくり	⑬危機管理体制の充実 (No.39-1~39-3 3事業) ⑭「E-KIZUNA project」 (No.44 1事業) ⑮みどり倍増プロジェクト事業 (No.48-1~48-8 8事業)
第6回	8月19日(金) 19:00~21:00	2項目 (8事業)	環境・ まちづくり 経済・雇用	⑯市民が憩える場所づくりプロジェクト事業 (No.49-1~49-6 6事業) ⑰自立生活支援プロジェクト事業 (No.53-1~53-2 2事業)
第7回	8月30日(火) 19:00~21:00	3項目 (13事業)	経済・雇用 地域間対立	⑱雇用倍増プロジェクト (No.54-1~54-11 11事業) ⑲大宮駅東口開発 (No.60 1事業) ⑳地下鉄7号線 (No.61 1事業)
《合計》		20項目 (55事業)		
	9月9日(金) 19:00~21:00	予備日		
第8回	9月22日(木) 19:00~21:00	取りまとめ		
第9回	10月6日(木) 19:00~21:00	取りまとめ		
	10月13日(木) 19:00~21:00	予備日		
	10月15日(土) 13:30~15:30	◎「市民評価報告会」		

※上記項目数は関連事業のある項目やプロジェクト事業を1項目と計上しています。
 ※ヒアリング対象事業(案)は現時点での候補であり、今後、委員会での議論を踏まえ、ヒアリング事業の追加・割愛をすることもありますので、あらかじめご了承ください
 ※第1回~第9回までの会場はいずれも浦和コミュニティセンター第13集会室、市民評価報告会は同センターの多目的ホールを予定しておりますが、委員会の進行状況等により、日程等を変更する場合があります。

《第2回 6月24日(金) 開催分》

※ 網掛けは評価実施済みの事業

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	市民評価委員会 達成度評価結果	
							進捗度	点数
行動宣言 (5)	I-1	マニフェスト検証大会を毎年開催。(4年以内)			1		b	7.1
	I-2	タウンミーティングを全10区で計40回開催。(4年以内)			2		b	7.0
	I-3	現場訪問を400回実施。(4年以内)			3		b	7.1
	I-4	学校訪問を全校実施。(4年以内)			4		b	7.1
	I-5	職員との車座集いを100回開催。(4年以内)			5		b	7.0
条例宣言 (7)	II-1	市長任期を3期までとする、多選自粛条例を制定します。(すぐ)			6		d	0.6
	II-2	生涯スポーツを推進し、スポーツを活用した総合的なまちづくりを推進する「さいたま市スポーツ振興まちづくり条例」を制定します。(すぐ)			7		b	5.6
	II-3	障がい者も健体者も共に地域で暮らせるノーマライゼーション条例を制定します。(すぐ)			8	1	b	7.1
	II-4	一人ひとりの子どもが輝くために「子ども総合条例」を制定します。(2年以内)			9		d	3.9
	II-5	「文化都市創造条例」を制定します。(2年以内)			10		c	4.8
	II-6	さいたま市の憲法「自治基本条例」を市民参画で制定します。(3年以内)			11		b	6.4
	II-7	他市に類をみないスピードで進む高齢化に備えて「安心長生き条例」を制定します。(4年以内)			12		b	6.9
行財政改革 (14/28)	1	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。(すぐ)	1-1	行財政改革推進本部の設置	13	2	a	8.5
			1-2	事務事業評価の見直し	14	3	b	8.3
			1-3	補助事業の見直し	15	4	b	7.6
			1-4	外郭団体改革	16	5	b	6.9
			1-5	公共施設マネジメント会議設置	17	6	b	7.1
	2	すべての窓口業務を区役所で行えるようにします。(すぐ)	2-1	窓口改革・権限移譲(統括)	18	7	b	7.0
			2-2	予算	19	8	b	7.0
			2-3	組織・人事	20	9	b	5.9
			2-4	くらし応援室の設置	21	10	b	6.9
	3	区長マニフェストを全区長が策定するようにします。(すぐ)			22		b	5.9
	4	市長の退職手当を50%減額します。(すぐ)						
	5	市長給与を10%減額します。(すぐ)						
	6	指定管理者の指定などにおける透明性を確保します。(すぐ)			23		b	6.9
	7	一職員一改革提案制度を創設します。(すぐ)			24		b	8.2
8	政令市初の予算編成過程の透明化も含め、徹底的な情報公開を行います。(すぐ)	8-1	予算編成過程の公開	25		b	7.2	
		8-2	会派要望への対応状況の公表	26		b	6.1	

≪第3回 7月8日(金) 開催分≫

※ 網掛けは評価実施済みの事業

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	市民評価委員会 達成度評価結果	
							進捗度	点数
行財政改革 (12/28)	9	情報公開日本一を実現します。(2年以内)	9-1	情報提供体制の整備	1		b	7.5
			9-2	都市経営戦略会議の審議内容等の公表	2		c	3.9
			9-3	パブリックコメントの充実	3		c	3.9
			9-4	パブリシティの推進	4		b	6.9
			9-5	身近な道路整備要望への対応状況の公表	5		b	8.2
			9-6	市へ寄せられた意見とその対応状況の公表	6		b	7.0
	10	外郭団体の長への市長・副市長の兼職を廃止します。(2年以内)			7		a	8.6
	11	職員の自動的な天下りを廃止します。(2年以内)			8		b	6.9
	12	行政職への民間人登用を含め、実力ある人を適材適所に配置します。(2年以内)	12-1	行政職への民間人登用	9		b	6.9
			12-2	民間企業等経験者の採用	10		b	7.7
			12-3	適材適所の人事配置	11		b	7.1
	13	電子市役所を構築します。(4年以内)			12		b	6.8
	市民・自治 (3)	14	区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた、検討会議を設置します。(すぐ)			13		b
15		市民活動を推進するための「マッチングファンド制度」を創設します。(2年以内)			14	1	c	4.4
16		大学コンソーシアムの仕組みを構築します。(4年以内)			15		b	7.0
子ども (24)	17	子どもの好奇心を伸ばすために、プロのスポーツ選手やアーティストなどによる授業を拡大します。(すぐ)			16		b	7.0
	18	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。(2年以内)	18-1	読み・書き・そろばんプロジェクト	17		b	6.1
			18-2	なわとび・逆上がりプロジェクト	18		b	7.1
			18-3	あいさつ・礼儀	19		b	7.0
			18-4	早寝・早起き・朝ごはん	20		b	7.0
	19	「放課後子ども教室」を増増します。(2年以内)			21		b	6.9
	20	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員(保健師、児童相談所員など)を増員します。(2年以内)	20-1	児童相談所の充実	22	2	b	7.1
			20-2	保健所の充実	23	3	b	7.0
	21	家庭・地域・学校が連携して取り組む「土曜日寺子屋」を実施します。(4年以内)			24		b	7.0
	22	子どもの創造力を高める「子ども博物館構想」を推進します。(4年以内)			25	4	c	4.2
	23	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。(4年以内)	23-1	1日保育士体験	26		b	7.1
			23-2	子育て支援センターの活用	27		a	8.7
			23-3	ワークライフバランスの認知度向上	28		b	6.1
			23-4	親の学習などのアドバイザー育成・親育ち支援策	29		b	7.0
24	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。(4年以内)	24-1	認可保育所	30	5	a	8.7	
		24-2	ナーサリールーム・家庭保育室	31	6	a	8.9	
		24-3	放課後児童クラブ	32	7	c	4.1	

≪第3回 7月8日(金) 開催分≫

※ 網掛けは評価実施済みの事業

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	市民評価委員会 達成度評価結果	
							進捗度	点数
	25	北九州方式を参考とした小児救急体制や、産科救急体制を整備します。(4年以内)	25-1	小児救急	33		b	7.1
			25-2	産科救急	34		b	7.1
	26	高校教育の底上げを図り、質の高い特色のある学校づくりを推進します。(4年以内)			35		b	6.9
	27	一人ひとりの子どもが輝くために、心のサポート推進事業を充実します。(4年以内)			36		c	4.9
	28	ノーマライゼーションの理念の共有化に向け、障害のある人もない人も、誰もが同じように住み慣れた地域で暮らし学べるよう、特別支援教育を充実します。(4年以内)			37		b	7.0
	29	学校教育における食育を推進します。(4年以内)			38		b	6.8
	30	メディアリテラシー教育の充実と携帯・ネットアドバイザー制度を創設します。(4年以内)			39		b	7.0

≪第4回 7月22日(金) 開催分≫

【※網掛けは、ヒアリング事業】

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数
高齢者 (7)	31	介護する人への支援体制を充実します。(すぐ)			1	1
	32	配食サービスの拡充を図り高齢者の自立を支援します。(すぐ)			2	
	33	空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。(4年以内)	33-1	高齢者サロン	3	2
			33-2	介護者サロン	4	3
	34	シルバー人材センターの充実や団塊の世代の市民活動の推進など、高齢者が地域で働く場を増やします。(4年以内)			5	4
	35	シニアユニバーシティを充実します。(4年以内)			6	5
	36	高齢者を対象とした、(仮称)シルバー元気応援ショップ制度(割引制度)を創設します。(4年以内)			7	
健康 ・安全・安心 (8/17)	37	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元気倍増大作戦～(4年以内)	37-1	食生活・運動	8	6
			37-2	介護予防	9	7
	38	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を倍増します。(4年以内)	38-1	多目的広場整備方針の決定	10	
			38-2	都市公園内のグラウンド等の個人への開放	11	
			38-3	民有地を活用した多目的広場の整備	12	
			38-4	「(仮称)スポーツふれあい広場」の整備	13	
			38-5	大学との連携による多目的広場の整備	14	
			38-6	農業関連施設へのスポーツもできる多目的広場の整備	15	

*7/8開催の第3回委員会において、当初案でヒアリング対象となっていた「スポーツもできる多目的広場倍増No.38-1～38-6」の6事業がヒアリング対象外とされ、「No.31 介護する人への支援体制充実」と「No.37 食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。≪37-1 食生活・運動≫ ≪37-2 介護予防≫」の3事業が追加でヒアリング対象となりました。

次回 ヒアリング候補事業追加・削除取りまとめ一覧

《第5回 8月5日(金) 開催分》

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリング ○(追加) ×(削除)						
						当初案 による 事業数	伊藤 委員	延原 委員	林委 員	福崎 委員	木島 委員	
健康 ・安全・安心 (9/17)	39	万全な危機管理体制を構築します。(4年以内)	39-1	総合防災情報システムの構築	1	1						
			39-2	危機事案発生時の初動体制の確保	2	2						
			39-3	防災ボランティアコーディネーターの養成と避難場所運営体制の構築	3	3						
			39-4	災害時要援護者への支援	4				○			
			39-5	マンホールトイレの整備	5				○			
			39-6	新型インフルエンザ対策	6				○			
			39-7	地域防犯ステーションなどの増設と自主防犯パトロールの促進	7							
	40	民間住宅の耐震化補助事業を拡充します。(すぐ)			8						○	
	41	障害者自立支援法の時限措置終了後も、市独自の負担軽減策を継続します。(すぐ)			9							
環境 ・まちづくり (11/25)	42	市内照明のLED化率全国1位を目指します。(4年以内)			10		○	○				
	43	太陽光発電設備の設置を推進します。(4年以内)			11			○				
	44	「E-KIZUNA Project」などの実施により、次世代自動車の普及を促進します。(4年以内)			12	4			×			
	45	さいたま新都心のサッカープラザ計画は白紙撤回します。(すぐ)			13							
	46	コミュニティバス路線の検討委員会を設置します。(すぐ)			14						○	
	47	新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分します。(3年以内)			15					○	○	
	48	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。(4年以内)	48-1	公園の芝生化	16	5	×	×	×			
			48-2	学校の芝生化	17	6	×	×	×			
			48-3	保育園の芝生化	18	7	×	×	×			
			48-4	学校の緑のカーテン	19	8	×	×	×			
			48-5	公共施設・家庭の緑のカーテン	20	9	×	×	×			
48-6			公共施設の緑化	21	10	×	×	×				
48-7			民間建築物の緑化	22	11	×	×	×				
48-8	花と緑でいっぱい・区の花の制定	23	12	×	×	×						

≪第6回 8月19日(金) 開催分≫

【※網掛けは、ヒアリング事業】

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数
環境 ・まちづくり (11/25)	49	見沼たんぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。(4年以内)	49-1	見沼基本計画の策定	1	1
			49-2	歴史的遺産・自然環境の活用	2	2
			49-3	教育ファームの実施	3	3
			49-4	市民農園の整備	4	4
			49-5	東宮下調節池の広場整備	5	5
			49-6	高沼用水路の整備	6	6
	50	良好な住環境を守るための「高度地区」による高さ制限を導入します。(4年以内)			7	
	51	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。(4年以内)	51-1	都市公園の整備	8	
			51-2	暮らしの道路・スマイルロードの整備	9	
			51-3	下水道の整備	10	
	52	効率的な道路ネットワークを構築するため、都市計画道路を抜本的に見直します。(4年以内)			11	
経済・雇用 (2/20)	53	ワーキングプアを増やさない、部局横断的な「自立生活支援対策チーム」を設置します。(すぐ)	53-1	セーフティネットの構築	12	7
			53-2	ステップアップの取組	13	8

≪第7回 8月30日(火) 開催分≫

【※網掛けは、ヒアリング事業】

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数
経済・雇用 (18/20)	54	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(4年以内)	54-1	ものづくり企業支援事業	1	1
			54-2	テクニカルブランド企業認証事業	2	2
			54-3	戦略的企業誘致	3	3
			54-4	産学連携によるイノベーション創出	4	4
			54-5	新規就農者支援事業	5	5
			54-6	事業所内保育施設推進事業	6	6
			54-7	介護福祉士資格取得支援	7	7
			54-8	ホームヘルパー2級資格取得支援	8	8
			54-9	福祉介護人材の養成確保	9	9
			54-10	ものづくり人材支援事業	10	10
			54-11	マッチング事業	11	11
	55	市内の観光資源を有効に活用し、海外も含め観光客を積極的に誘致します。(4年以内)			12	
	56	起業家応援のための「ベンチャービジネス倍増プロジェクト」を実行します。(4年以内)	56-1	人材育成支援	13	
			56-2	創業環境支援	14	
	57	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。(4年以内)	57-1	コミュニティビジネス育成事業	15	
57-2			コミュニティビジネス促進事業	16		
58	中小企業・小規模事業者への融資制度を充実します。(4年以内)			17		
59	企業のCSR活動の認証制度を創設・推進します。(4年以内)			18		
地域間対立を 越えて (3)	60	大宮駅東口再開発は、東日本の玄関口として経済・商業都市としての機能を高める開発を推進します。(4年以内)			19	12
	61	地下鉄7号線延伸は、経済性などを十分に考慮し、まちづくりと連動させて推進します。(4年以内)			20	13
	62	市庁舎のあり方は、地域的対立を越えた視点から、市民の声を聞きながら検討します。(4年以内)			21	